

主任介護支援専門員の指導記録票

記録年月日： 令和● 年 ● 月 ● 日

所属	●●●ケアプランセンター
主任介護支援専門員氏名	香川 太郎

主任介護支援専門員としての指導支援期間	令和 5 年 1 2 月から令和 6 年 3 月まで
バイザーとの関係性	同法人内の居宅介護支援事業所

■バイザーについて ※バイザーとバイジールのやりとりの中で捉えたこと

基礎資格	介護福祉士	介護支援専門員としての経験年数	1 2 年
強み・良さ	これまで特養、老健での施設ケアマネの経験があり、施設ケアマネジメントの知識がある。		
苦手なこと	事例の展開が早い、動きがある支援は、対応が後手になることがあった。		

■バイジールの課題

バイジールがこの事例で抱えている介護支援専門員としての課題	民生委員や近所の方から次々と状況の連絡が入り、特に民生委員からは自宅での生活は難しいと言われている。このような中、地域の方とどのように連携をとるべきか、が課題だと考える。
バイザーがこの事例で抱えている介護支援専門員としての課題（成長すべき課題）	次々に連絡が入ることの対応に追われしっており、本人を支援するチームをまとめることに課題があると考える。介護保険サービスを中止とした支援者間は問題ないが、特に地域の方々をどう支援の輪の中に入れてもらうのか、もしくは連携していくのか、が課題。

■指導支援の経過

年月日	バイジールの事例に対する働きかけ・困りごと	バイザーの理解・判断・働きかけ
令和 5 年 12 月●日	事例について相談あり。 本人は認知症がすすんでおり、自宅から頻回に外に出てしまい、近所の人から連れ帰ってくれている。その都度、近所の人から連絡が入る。また、民生委員からは、危険だから施設入所を考えては、という連絡があった。 実際に外に出てしまうが、本人なりの理由があり、また、本人も家族も、自宅での生活を希望しているので、民生委員にもそのように説明するが、うまくいかない。	バイジール自身、自宅から外に出ることについて、具体的なアセスメントが不足していると判断し、アセスメントを本人の視点から行うように伝える。 具体的には、支援を開始した 2 か月前からの回数、日時、その時の状況、どこに行ったのか、その理由を確認するよう伝える。また、いつから外に出るようになったのか。サービスは、週 2 回の通所介護から始め、現在は週 4 回の利用のため、その影響も検討するように伝える。 民生委員等へのはたらきかけは、上記のことが理解できてから検討することとなる。 一方で、本人や家族の意向をきちんと把握できていることを、できていることとして伝える。

※枠が不足する場合には、適宜追加して作成してください。ただし、この指導・支援シートは、全部で2ページになるようにしてください。

■バイザーの振り返り ※指導支援を通して

うまくいった点	自分だったらと言いたいことを抑えて、バイザーの理解に合わせてすすめることができた。自分の得意とする認知症ケアだけではなく、地域との連携、何よりも家族への支援という視点まで考えることができた。
苦慮した点	最初、バイザーの課題をうまくつかむことができずにいた。本人を施設に入れたいのか、民生委員から言われて困っているのか、分からず、初回の相談が一番時間がかかってしまった。
自分自身の強み	グループホームの経験もあることから、認知症ケアにはある程度知識を持っている。また、その時のつながりで、民生委員と顔の見える関係にあり、連携をとりやすい。
バイザーとしての成長課題	どうしても、バイザーが行ってきた支援に対して、白黒をつけてしまう傾向がある。特に、自分が得意としている認知症ケアに関わると、ちょっと熱くなってしまう。バイザーの立場に立ち、バイザーがどう困っているのか捉えることが課題だと考える。

この記載例は、一般社団法人茨城県介護支援専門員協会が作成したものを使用しています。